

ジグソーパズルで

見つめる目に鋭さを！

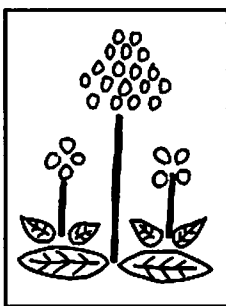
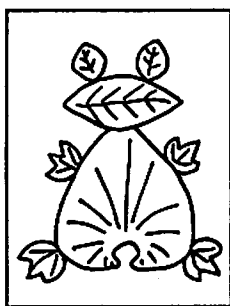
札幌市立伏見小学校 牧口秀徳

「子どもたちを自然にたっぷり浸らせ、親しませたい」と、どの教師も願っています。『親しむ』という字は、『木』に『立って』『見る』と書きます。辺りを良く見るということですから『観察』に通じます。

子どもに「よく見てみよう」と呼び掛けても、子どもは何をどう見たらよいか分かりませんし、生活科の学習に相応しい教師のかかわりとはいえません。

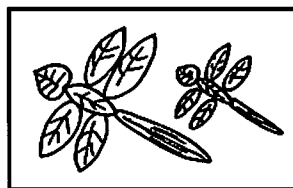
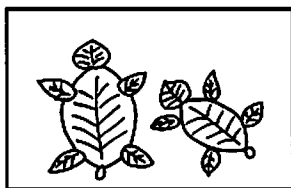
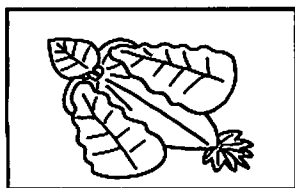
そこで、葉っぱを使った「ジグソーパズル遊び」の活動を構成してみました。

活動を展開する場所に見られる草木の葉っぱを使って、5種類の「ジグソーパズル」を用意し、一人一人の子どもに好きなパズルを選ばせてその完成を目指させます。



いろいろな形の葉っぱを組み合わせて
作った5種類の「ジグソーパズル」

〈構成：鶴飼麻未〉



子どもは、めざす形や大きさの葉っぱを求めて、原っぱを駆け回ります。子どもの目標はジグソーパズルの完成にあるわけですが、そのためには、自然を注意深く見つめなければなりません。すなわち、子どもの目標の先に教師の目標が位置付くのです。